

2008-07-01 作成, 2012-06-15, 2012-10-24, 2013-06-19, 2014-05-24, 2016-04-14 改定

大学院システム情報工学研究科・知能機能システム専攻における  
「社会人のための博士後期課程早期修了プログラム」履修案内

【I 社会人のための博士後期課程早期修了プログラム履修審査】

1 社会人のための博士後期課程早期修了プログラム履修要件

社会人のための博士後期課程早期修了プログラム（以下、早期修了プログラムという）を履修するためには、履修審査時に下記の要件を満たしておく必要があります。

- (1) 査読付き学術雑誌論文 2 編以上（1 編は査読付き国際会議論文も可。原則として筆頭著者であること）
- (2) 国際会議口頭発表 1 件以上（原則として筆頭著者であり、自身が発表したもの。ポスター発表を含む）

2 社会人のための博士後期課程早期修了プログラム履修審査手順

- (1) 事前に希望する指導教員と面談した上で（決まっていない場合には早めに専攻長にご相談ください）
- (2) 8 月期または 2 月期において社会人特別選抜により博士後期課程に合格し、
- (3) 早期修了プログラムの履修を希望する方は、
- (4) 次の 4 種類の書類
  - <A 履修申請の要約>
  - <B 研究業績リスト>
  - <C 論文別刷等附属書類>
  - <D 達成度自己点検シート>

を提出することによって、早期修了プログラム履修審査（以下、履修審査という）の申請ができます。書類提出時期と提出先については、システム情報工学研究科HPに掲載されている「早期修了プログラム履修審査に係る日程表」で確認して下さい。書類提出前に、希望する指導教員と書類の内容について相談して下さい。

- (5) この履修審査は、書類及び面接によって審査を行います。
- (6) 履修が認められたら早期修了プログラム履修生として入学します。
- (7) 履修審査に合格しなかった場合でも、一般課程学生として入学することができ、知能機能システム専攻の修了要件を満たした時点で、早期修了プログラムによらない早期修了も可能です。

3 早期修了プログラム履修審査のために準備する書類

<A 履修申請の要約>

下記の項目を A4 1 ページで簡潔にまとめてください。

- (1) 氏 名（ふりがな）
- (2) 所属・部署・職名
- (3) 連絡先（郵便物送付先、固定電話番号、携帯電話番号、FAX 番号、e-mail address）
- (4) 希望する指導教員名
- (5) 修士論文作成時の専門分野（修士号保有者のみ）
- (6) 業務内容との関わり（業務内容と無関係の研究内容でも構いません）
- (7) その他参考となる事項（査読付き学術雑誌論文数、査読付き国際会議論文数、国際会議で口頭発表した件数）

<B 研究業績リスト>

下記の区分に従って作成してください。様式自由で、ページ制限は特に設けていません。記入例があるので参照して下さい。

1. 査読付き学術雑誌論文      なお後述の<C 論文別刷等>で添付する論文番号に○印を付してください
2. 査読付き国際会議論文      なお後述の<C 論文別刷等>で添付する論文番号に○印を付してください

3. 国際会議口頭発表   なお後述の<C 論文別刷等>で添付する論文番号に○印を付してください
4. 解   説
5. 報   告（口頭発表・ポスター発表等）
6. その他諸報告
7. 社会的貢献・活動
8. 受賞・表彰
9. 特許・発明
10. その他特記事項

<C 論文別刷等付属書類>

(1) 査読付き学術雑誌論文 2 編（うち 1 編は査読付き国際会議論文も可。原則として筆頭著者であること）の別刷またはコピー 3 編（採録可とされていれば未刊行のものでも構いません。その場合は、採録通知と原稿を添付して下さい）。

(2) 国際会議口頭発表 1 件（原則として筆頭著者であり、自身が発表したもの。ポスター発表を含む）の発表の概要が分かる著者・発表者氏名・発表題目等が記載されたプログラム資料。会議論文が発行されている場合は、その別刷またはコピー。

(3) その他必要と思われる書類。

<D 達成度自己点検シート>

(1) 達成度自己点検シートでは、下記の 7 項目について、具体的、客観的かつ簡潔に記載することで、現在の自分自身のレベルが博士レベルと同等又は修士レベルと同等以上であることを主張するようになっていきます。記入例があるのでそれを参照して下さい。各項目とも、500 文字以下で記入して下さい。

(2) 早期修了プログラム履修審査申請の段階では、原則として項目①、③、⑤、⑥、⑦については "D"（博士レベル）であることが主張できることを求めています。その他の項目②、④については、申請の段階では、"M"（修士レベル）以上を主張できれば十分ですが、博士レベルであることを主張しても差し支えありません。入学後の修学によって全ての項目についてそのレベルを高め、課程修了段階で全ての項目が博士レベルになっていることが必要になります。

(3) 達成度自己点検シートにおける項目：

① 専門基礎（入学者の志望専門分野について、博士の学位に相応しいレベルの基礎能力を有しているか）

「研究業績リスト」で挙げた論文等の内容に基づいて、専門基礎が、博士の学位レベルであることを、端的に、主張して下さい。

② 関連分野基礎（志望専門分野に関連した分野について、修士レベルの基礎能力を有しているか）

修士号保有者は修士課程のときの学習内容に基づいて、また修士課程を修了していない場合は、修士相当の関連分野基礎能力を有していることを客観的かつ具体的に述べて下さい。

③ 現実問題に対する分析力（現実の問題について、博士の学位にふさわしいレベルのセンス・見識を備えているか）

これまでの業務内容などと関連させて、実務の中でどのように現実の問題の知識を得たかについて記すとともに、現実の問題の知識が学術的蓄積に現れている箇所について記して下さい。

④ 広い視野（修士レベルの視野の広さを有しているか）

これまでの業務内容などを踏まえて、これまでの経験と学習がどのような形で広い視野を形成するようになったかを簡潔に記して下さい。

⑤ 問題設定から解決まで（専門的応用能力である問題設定から解決までのプロセスを理解し、具体的解決に導くことができるか）

業績リストおよびこれまでの業務内容に関連させて、どのように問題設定を行い、問題を解決していったか、具体的かつ客観的に述べて下さい。

⑥ コミュニケーション能力と国際的通用性（博士の学位にふさわしいプレゼンテーション能力とコミュニケーション能力を有し、専門分野において国際的に通用する学識を備えているか）

学会発表や国際共同プロジェクトなど国際的な場における経験がどの程度あるのか、述べて下さい。必要に応じて業績リストを適宜引用して下さい。プレゼンテーション能力とコミュニケーション能力については、入学試験の口述

試験で確認するので、記載は不要です。

⑦ 学術的成果（博士の学位を授与してよいと判断できる学術的成果を有しているか）業績リストによって判定するので、記載は不要です。

#### 4 早期修了プログラム履修審査の内容について

##### (1) 書類審査

提出された資料を基に、達成度の項目別評価を行います。

##### (2) 面接審査

複数の面接員により面接審査を行います。面接審査の細部については、専攻長より示されます。

なお、具体的な評価内容については、『達成度評価シート』記載例』を参照して下さい。

### 【Ⅱ 履修が承認された場合の学修について】

#### 1 履修方法と修了要件

##### (1) 知能機能システム専攻共通科目のうち定められた必須科目の5科目10単位

- ・知能機能システム特別研究Ⅲ（2単位）必修（平素の研究活動）
- ・知能機能システム特別研究Ⅳ（2単位）必修（平素の研究活動）
- ・知能機能システム特別研究Ⅴ（2単位）必修（平素の研究活動）
- ・知能機能システム特別演習Ⅶ（2単位）必修（英語プレゼンテーション）
- ・知能機能システム特別演習Ⅷ（2単位）必修（学術論文演習a）

を履修すること。さらに博士前期課程の専攻専門科目を含む大学院共通科目、システム情報工学研究科共通科目のうちから計2単位以上を履修し、合計して計12単位以上

- ・講義科目を合計で2単位以上（指導教員と相談して決めます）

を履修し、合計して12単位以上を修得すること。

<中 略>

##### (4) 修了要件は、計12単位以上を修得し、博士論文の審査及び最終試験に合格することである。

2 前項(1)に示す科目等を履修することによって、予備審査時には、達成度自己点検シートの項目①～⑦すべての項目について、予備審査に入れるレベルに到達している必要があります。

#### 3 中間審査について

学修を円滑に進めるため、本プログラム履修開始から3～4ヶ月経過した時点で、学修の進捗について中間審査を行います。中間審査時には、履修審査時に提出した「達成度自己点検シート」と同じ形式の「中間審査時達成度自己点検シート」を提出し、担当教員の指導を受けます。

#### 4 予備審査について

予備審査の申請にあたって、「予備審査時達成度自己点検シート（履修審査時に提出した「達成度自己点検シート」と同じ形式で記述）」では、項目①～⑦すべての項目について、入学後何を学び、予備審査のレベルに達したかを述べます。なお、受講すべき科目数と受講内容については、各学生により異なる場合がありますが、いずれも達成度評価に基づき判定しますので、担当教員の指示に従うことになります。

5 予備審査時には、次の2点を審査します。

- (1) 項目①～⑦すべての項目について "A"（予備審査に入れるレベル）以上であることの確認
- (2) 学位論文の予備審査
- (3) 予備審査に合格した者は、学位論文に着手することを認められます。

【参 考】 早期修了プログラム達成度評価項目と修了時の達成度の目安

##### ① 専門基礎

履修者の専門分野について、博士の学位にふさわしいレベルの基礎能力を有しているか。

② 関連分野基礎

専門に関連した分野について、専門分野ほど深くはないとしても、博士の学位にふさわしいレベルの基礎能力を有しているか。

③ 現実問題に対する分析力

現実の問題について、博士の学位にふさわしいレベルのセンス・見識を備えているか。

④ 広い視野

博士の学位にふさわしい視野の広さを有しているか。

⑤ 問題設定から解決まで

専門的応用能力である問題設定から解決までのプロセスを理解し、具体的解決に導くことができるか。

⑥ コミュニケーション能力と国際的通用性

博士の学位にふさわしいプレゼンテーション能力とコミュニケーション能力を有し、専門分野において国際的に通用する学識を備えているか。

⑦ 学術的成果

博士の学位を授与してよいと判定できる学術的成果を有しているか。